

春 秋 新



目次

- | | |
|----------------|-----------------|
| 2~4 就任挨拶 | 10・11 就職状況・就職支援 |
| 5 大学改革の取組状況 | 12 キャンパス・ニュース |
| 6 地域連携センター発足 | 13 学生の声・サークル便り |
| 7 看護管理コース新設 | 14 後援会便り |
| 8 国際交流 | 15 後援会の主な事業 |
| 9 キャンパスルールを守ろう | 16 行事予定、お知らせ |

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報

2006.4
VOL.24

理事長あいさつ

蓑茂 寿太郎

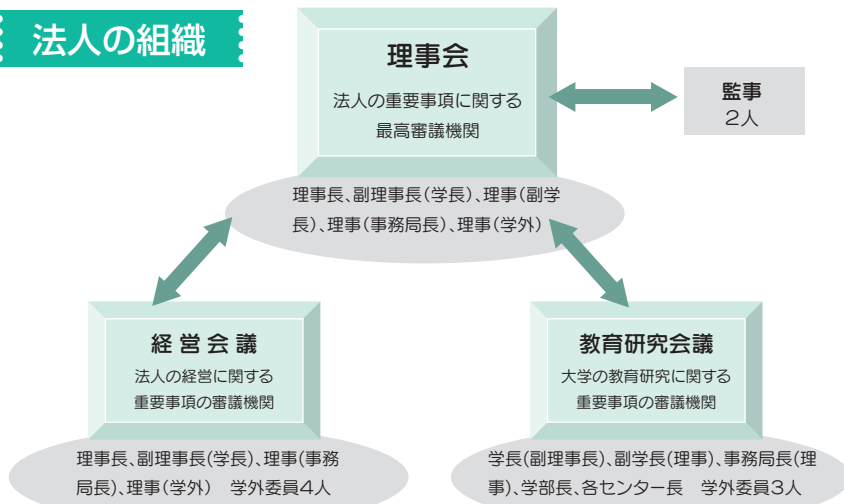


年に二回発行の学報「春秋彩」を通じて、学生の皆さんをはじめ、本学のステークホルダーへ強い関心をお示しの方々にメッセージをお届けする機会ができてうれしく思います。熊本県立大学は、四月二日から公立大学法人に衣替えをしました。熊本県から自立し、社会と真向かいに対峙する大学として自律する独り立ちでありました。その初代理事長をお引き受けして、今更ながら責任の重さをひしひしと感じているところでもあります。大学に限らず、最近さまざまな場面で「改革」の言葉を耳にしますが、その意味するところは「たくさんの改善」に他なりません。大学の場合、その改善は、本分である研究教育面と、これを支える大学アドミニストレーションにあります。この二つの連携がきわめて重要なのです。

そもそも、公立の大学は、地元が欲する人物を養成する目的で、地元が「生みの親」となったものです。これからは、「育ての親」としての役割が大きくなりますので、わたしはこれを担当したいと思います。熊本は、これまでに日本を代表する個性ある地域ブランドを形成してきたのではないのでしょうか。その地域にふさわしい大学として、時代の進展に応じ、常に進化し続ける、なくてはならない大学でありたく思います。これから、高校生の皆さんにも、市町村にお住まいの県民の皆さんにもタイムリーな情報を常に発信できる大学づくりの心がけます。どうぞご期待ください。

今、この熊本県立大学に集う若者が、「地域に生き、世界に伸びる」のスローガンを片手に、もう一方の手には「カルテラ規模の知識とスキルを実学する」、これが新しい熊本県立大学なのです。皆このことを共感し、共振できたらと思います。

法人の組織



法人の目的

公立大学法人熊本県立大学は、豊かな教養と高度な専門性を有し、総合的な知識と実践力、創造力を備えた有為な人材を育成するとともに、研究成果を社会に還元し、教育研究資源を地域に提供することを通じて、熊本県ひいては国際社会の発展に寄与することを目的とします。

学長あいさつ

米澤 和彦

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。ただ、苦しい受験勉強のうちに勝ち得たこの喜びは、皆さん自身の能力と努力もさることながら、ご家族をはじめ周囲の方々の有形無形のご援助のたまものであることを、心に刻み込んでおいていただきたいと思います。

今日、日本は大きな時代の転換点にあります。国際化、情報化、そして少子高齢化の進行の中で、日本の社会システムそのものが、大きく変わろうとしています。大学も決して例外ではありません。

国公立大学の法人化もこのような流れの中のひとつの動きだと見ることが出来ます。たとえば、これまで国公立大学の入学金や授業料は、いわば「横並び」でみな同じでした。今後、徐々にではありますが、この「横並び」も崩れていかざるをえないでしょう。われわれ教職員はもちろん、学生の皆さんと一体となって、この厳しい競争の中で「地域の大学」として頑張っていきたいと思っております。

さて、学生時代は、人生でもっとも自由で、もっとも実りの多い時期です。講義に熱中するもよし、サークルで先輩と一緒に汗を流すもよし、ボランティア活動で生き甲斐を見つけるもよし、——どうか皆さん、熊本県立大学の学生としての自覚と責任をもって、何事にも果敢にチャレンジして下さい。いろいろな新しい道が開けてくるはずですよ。

皆さんの若さと活力におおいに期待しています。

法人化に関するQ&A

Q なぜ、法人化したの？

A 社会ニーズの多様化、少子化の進行による大学間競争の激化など、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。このような中、地域社会における「高等教育機会の提供」「人材育成」「教育・研究による貢献」という大学としての責務を果たしていくためには、大学が一定の権限と責任を持ち、自主的・自律

的に大学運営を行い、教育研究活動の活性化が図られる組織形態となる必要があります。

そこで、独立行政法人（公立大学法人）制度を導入することとしました。これにより組織・予算面での自由度が増し、より機動的な対応が可能になるとともに、教職員の学外活動が行いやすくなります。これらの特徴を生かし、地域や県民の期待に応えられるような魅力ある大学づくりに向け、様々な取り組みを一層展開して参りたいと考えています。



副学長
古賀 実

この度、副学長の重任を仰せつかり、これまで三年間勤めさせていただきました学生部長職とは比較にならない重責を感じております。大学を取り巻く環境は大きく変化してきています。学生諸君の能力、才能、大学に求めるものの多様化に応える教育研究は、いかにあるべきか、また、大学に対する地域社会からの期待と要望にも応えて行かなければなりません。教育に携わる者として、自覚と自信と誇りを持って教育研究に当たるとともに、微力ながら魅力ある大学づくりに努めて参りたいと考えています。一層のご援助、ご協力をお願いいたします。



文学部長
三木 悦三

近年の少子化にもかかわらず、文学部を志望する受験生の数は極めて高い状態で推移しています。これは21世紀を迎え、ますます多様化する社会の中で、日本語や日本文化、また、国際語として英語の重要性が改めて認識されたことによると思われます。この期待に応えるために文学部は奥行きと広がりのある教育体制を取り、一人ひとりの学生が卓抜した言語能力と豊かな感性を育むよう全力を挙げたいと思っております。



環境共生学部長
大和田 紘一

環境共生学部は新しい視野から人間活動と自然環境の調和を目指して平成11年に全国に先駆けて作られた自然科学系の学部で、大学院修士(博士前期)課程はその学年進行で平成15年に、博士後期課程は平成17年に開設されました。循環型社会、環境保全、自然に優しい居住環境、食の安心安全や健康増進などの充実を目指した教育や研究により、地域への貢献とネットワーク作りや情報の発信にさらに頑張っていきたいと考えています。



総合管理学部長
松野 了二

法人化に伴い総合管理学部ではいろいろな検討・改革が行われました。その結果のひとつとして、学部の4コースの充実化とともに、大学院(博士前期課程)も公共経営、企業経営、情報管理、看護管理の4コース制となりました。このような変革の時期に学部長に選任され重責を担うことになりましたが、本学部の教員はじめ皆様のご支援を得ながら学部長の職責を果たしていこうと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



学術情報
メディアセンター長
松岡 泰

今般の法人化に伴い、学生、教員さらには地域社会に対し、IT化の推進による教育環境や研究環境の充実を図るため、従来の図書館、外国語教育センター及び情報処理施設の3つの組織を一つに統合した「学術情報メディアセンター」が新たに誕生しました。今後、インターネット使用環境の整備等による学生の学習環境の向上など統合による機能充実について、皆様のお知恵をかりながら、取り組んでいきたいと思っております。

熊本県立大学の改革に向けた取組状況

<現在の検討状況>

県立大学では、平成16年7月の設置者(県)の改革基本方針を踏まえ、法人化後6年間の大学運営の基本となる中期目標・中期計画の検討や法人組織等の制度設計を進めております。

今後、県においては中期目標をパブリックコメント及び6月定例県議会に諮ることになっています。大学では中期目標を基に中期計画を策定し、さらなる教育研究の充実に向けて地域、県民の皆様の期待に応えられる大学となるよう取り組んで参ります。

<中期目標・中期計画案の概要>

地域社会における「高等教育機会の提供」、「人材育成」、「教育・研究による貢献」の使命を果たす

熊本県立大学の目指す姿

21世紀の地域社会を担う人材育成の拠点としての大学

地域社会の発展に貢献する知的創造拠点としての大学

県民に開かれた学習・交流拠点としての大学

重点取組項目

教育内容・教育方法の充実

- 教養教育の改革
 - ・全学教育として教養教育を実施
 - ・現行カリキュラムの点検・見直し
- 教育研究と地域貢献の一体化
 - ・「もやいすと」育成プログラムをカリキュラムに位置づけ、大学全体として実施
- 文学部、文学研究科の改革
- アドミニストレーション研究科にコース制導入
- 教育の質の向上
 - ・FDの充実による教員の教育力向上
 - ・学生による授業評価アンケート活用による授業の改善、アンケート内容・方法の改善
- 高大連携推進による高校教育、大学教育双方の充実改善
- 就職、学生支援
 - ・インターンシップの推進
 - ・就職支援センターの機能充実
 - ・学生相談のための体制整備

研究の推進、研究成果の地域への還元

- 地域活性化や環境問題、地域文化の継承・創造等地域ニーズに積極的に対応する研究活動を推進
- 学長特別交付金制度により学際的研究、教育内容・教育方法開発のための研究支援
- 「熊本県立大学地域連携センター」設置による県政、市町村行政を支援するシンクタンク機能の充実、研究成果の地域への還元
 - ・自治体からの依頼、受託研究、政策形成過程への参加
 - ・試験研究機関、地域企業との共同研究推進
 - ・HP、講演会等による研究者、研究情報・成果の情報発信
 - ・「食環境研究情報室」などを設置、食などの分野に関し、県や試験研究機関等との連携強化、研究情報機能を充実

県民の多様な生涯学習ニーズに対応

- 地域連携講座の開設
 - ・大学の正規の授業を公開する「授業公開講座」、県民、市町村職員を対象にした「特別出前講座」等の各種講座を実施
- 大学院への社会人の受け入れを推進
- 「高等教育コンソーシアム熊本」への積極的参画

国際交流の推進

- 国際交流推進のための組織体制見直し
- 学生の国際交流推進のため、協定校との交流内容を改善、充実

業務運営の改善

- 運営調整会議の設置による企画調整機能の強化
- 学術情報メディアセンターの設置
- 情報公開と大学広報の推進
- 大学の情報システムの一元化
- 職員の専門性向上

熊本県立大学地域連携センターが発足しました!

県立大学では、県をはじめ市町村、企業、試験研究機関、市民団体、NPO などとの連携を深め、大学全体で地域貢献を展開することを目的として、平成15年度に「熊本県立大学地域交流センター」を設置しました。

この度、公立大学法人化に伴い、地域との連携をより強化し、地域貢献の取り組みを充実していくことを目的として、名称を「熊本県立大学地域連携センター」に改め、各学部コーディネーターや専任の事務職員を配置するなど、体制を大幅に強化しました。今後、地域連携センターを中心に、地域ニーズと大学の持つ資源をコーディネートし、地域における課題解決の支援や生涯学習への対応にさらに積極的に取り組んで参ります。

また、センター発足に伴い、外国語教育センターの1階に新たにセンター専用の部屋を設け、地域連携に関する各種の相談の受付や、各種講座の実施などの実施体制を整備しました。ロビーには地域貢献に関する交流スペースを設け、地域ニーズの受信や大学からの情報発信を行ってまいります。

地域の課題解決に熊本県立大学の力を活用したい、とのご要望がございましたら、お気軽に地域連携センターにご連絡ください。

地域連携センターで行う主な地域貢献活動

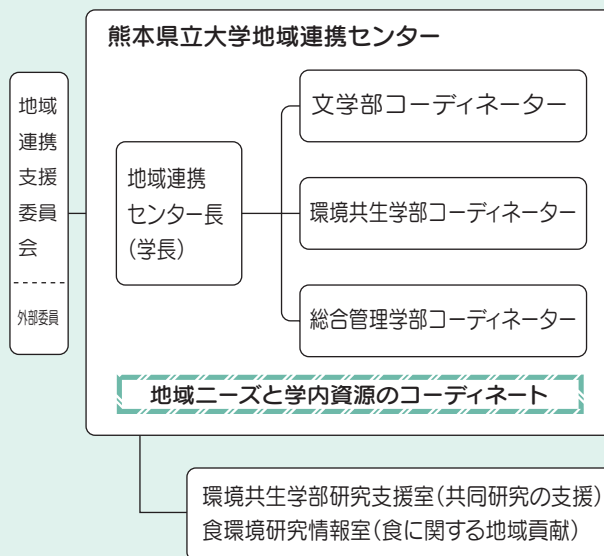
- ・ 地域連携講座（授業公開講座や特別出前講座など）
- ・ 講演会講師派遣
- ・ 各種審議会委員派遣
- ・ 受託研究（教員による研究）
- ・ 受託調査（学生による調査）
- ・ 地域貢献研究事業
- ・ 産学連携に関する相談
- ・ 高校との連携、大学間連携 など



「水辺プラザかもと(山鹿市)」でのアンケート調査風景

地域連携センターの組織

大学全体で地域貢献に取り組んでいくため、センター長は熊本県立大学の学長が兼務します。そして、人文・社会・自然の3分野を持つ総合的な大学として、各学部に1名ずつ地域連携コーディネーターを配し、学際的な地域貢献活動を行ってまいります。また、特定分野の地域貢献活動をより強力に推進するため、センター内室を設置します。初年度は、共同研究を推進するための「環境共生学部研究支援室(ACCESS)」と、食に関する地域貢献活動を推進するための「食環境研究情報室」を設置することとします。さらに、センターを統括する「地域連携支援委員会」に外部から委員をお願いして、センターの活動に外部の意見を取り入れてまいります。



熊本県立大学地域連携センター

TEL:096-383-2929内線(515) FAX:096-384-6765
E-mail:renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp
URL: <http://www.pu-kumamoto.jp/chikikoryu/index.htm>



「看護管理コース」新設

平成18年4月、アドミニストレーション研究科に看護管理コース(博士前期課程2年)を開設しました。

1. 設置の趣旨・目的

本県の保健・医療・福祉を支える人材育成として総合的な知識・技術を身につけた看護管理者の育成を目指します。

2. 看護管理コースの特色

……………アドミニストレーション研究科……………

公共経営コース

企業経営コース

情報管理コース

看護管理コース

●アドミニストレーション研究科では、あらゆる種類の組織にあって管理者(アドミニストレーター)が目標を達成するために採りうるべき適切な意思決定プロセスとは何かを学ぶため様々な授業科目を配置しています。看護管理コースでは、看護者としての知識・経験など看護の視点を基礎に法学、経営学、社会学など幅広いマネジメントの知識、視野を持った教育を受けることができます。

新任教員紹介

◀専門分野
看護研究・看護教育、
看護倫理・看護理論



正村 啓子
非常勤講師
(山口大学教授)

◀専門分野
ナursing・アドミ
ニストレーション、
看護経営・経済論、
看護組織論



横山 利枝
教授

◀専門分野
看護制度・政策論、
保健医療学



荒木 紀代子
助教授

看護管理コース

フォーラム開催

平成17年12月23日(祝・金)、国際医療福祉大学大学院の荒井蝶子教授をお招きし、しつし熊本県立大学大学院アドミニストレーション研究科「看護管理コース」開設フォーラムを開催しました。



このフォーラムは、「看護管理コース」の周知を図るとともに「看護管理」についての理解を深めるために開催したものです。

フォーラムには県内の保健・医療・福祉・教育関係の方など約170名の方が出席されました。

荒井蝶子教授からは、「これからの看護管理―求められる看護を目指して―」と題して、基調講演が行われました。

講演の中では、「正しい意思決定に基づいたマネジメントの必要性」と、「市民の健康を守るという看護職員が担うべき社会的役割」について述べられました。

昨年4月から1年間、研究員として
本学に来られた祥明大学校の梁東国(ヤン・トングック)先生に
熊本での1年間を振り返っていただきました。

自然と人情に恵まれた私の熊本での一年



梁 東国 (招聘教授・韓国 祥明大学校)

目に染み込まれるような新緑の美しさに驚き、またろくに息すらできない蒸し暑さに苦い思いもした。東シナ海の染み透るようなエメラルド色の輝きに包まれた天草のこじんまりとした見晴らしとおおらかな人情に触れ合い、また、阿蘇の広大な自然に見惚れて空を走っているような快感を何回も覚えた。研究室に入ると窓越しに聳え立っている日本赤十字病院にある種の敬虔さを感じ、窓際で囀っている二三羽の雲雀を眺めながら思索にふけり、いくつかの研究に取り組んだ日々であった。

萩原朔太郎についての講演(「韓国近代詩と朔太郎—青猫—のイメージを中心に」)や論文(「朔太郎詩文学の深淵」)の作成、そして大正期の思想家たちの植民地観を顧みて歴史教育のための一つの提案(「植民地論争と知識人—吉野作造・柳宗悦・河合榮治郎を中心に」)をした文学部での研究発表などは、近年にない私の研究の大きな収穫であった。このように熊本県立大学における1年間は自然と人情に恵まれた充実な研究年であった。

熊本県立大学と韓国祥明大学校は姉妹校として、二人の短期交換留学生をはじめ、短期語学研修団や韓国文化探訪団および教育実習生を相互に派遣しているなど、学生交流においては着実でなおかつ活発な国際交流を行っている。これにくわえ、教員や類似学問における連携研究においてももっと広げられていくことを密かに望んでいる。

ホストファミリー になりませんか?

熊本県立大学では、平成18年7月上旬(予定)から10日間程度、姉妹校の韓国・祥明大学校から短期学生研修団を受け入れます。

現在、学生を受け入れていただけるホストファミリーを募集しています。研修生たちは、ホームステイを通して日本の日常生活を体験しながら本学生との交流を深めます。

身近に国際交流を行う絶好の機会ですので、ぜひご協力ください。詳しくは学生支援課まで。

ホスト・ファミリー 体験者の声



文学部
英語英米文学科3年
濱邊 絵吏

私は昨年7月の10日間、韓国・祥明大学校短期学生研修団のホスト・ファミリーをさせていただきました。

私も家族も韓国語は全く話せなかったのですが、祥明の学生は祥明大学校で日本語を勉強していると聞いていた通り、日本語がとても上手で、難なくコミュニケーションが取れ、家族ともすぐに打ち解け、夜遅くまで話し込んだりしていました。

平日は他のホストファミリーと共に遊びに行くこともあり、学生の輪も広がったし、休日には私の友達も一緒に出かけたりして、毎日がとても充実していました。とてもいい異文化交流でした。



キャンパス ルール

を守って快適な学生生活を送りましょう!!

大学生には、小中学校、高校のような細かな校則は課せられませんが、成人として、又は成人に近づいた者として社会のルールやマナーを守り尊重する責任はむしろ大きくなります。

また、教育の場には、例え大学や大学院であっても、教える側、受ける側それぞれに、より良い学習環境を保つための礼儀やマナーが必要です。

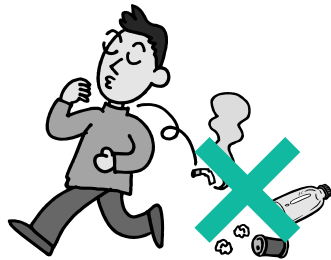
キャンパスや社会での生活上のルールやマナーについては、オリエンテーションでも触れますが、最近、学内や近隣で特に問題になっているいくつかのことについて、ここで確認しておきます。

× 喫煙ルール

キャンパス内は、**原則禁煙**です。
喫煙は成人に限り、所定の喫煙場所（学生口ビ一の外側、中講義室1及び17番講義室の外側等の灰皿設置箇所）でのみ認めています。

× ゴミやタバコの吸い殻のポイ捨て禁止(学内外)

ひどい例として、学内を車で通行しながら大学敷地外にペットボトルや空き缶を投げ捨てる者がいました。悪質なケースは処分対象となります。



× 迷惑駐車禁止

自動車での通学は、特別な理由のない限り、自宅から大学まで直線距離で5km以上の学生についてのみ許可しています。
駐車許可を取っていない学生は駐車できません。また、学内での路上駐車（特に環境共生学部新棟周辺）が目立ちます。所定の駐車スペースに止めましょう。



× ゴミの分別、ゴミ出しルールを守りましょう。(学内外)

学生であっても地域の一員です。家庭やアパートのゴミは、ルールに従って分別して出しましょう。

*学生のための学内外でのルールやマナー、安全安心な生活を送るための知識等については、学生便覧にある程度掲載していますが、補足するため本学後援会においてもマナーブックを配布しています。

昨年度から県大のごみ分別を促進するという目的で、「ごみLab」というグループを立ち上げました。私たちの活動は、後援会の自主研究助成事業の一環で助成金を頂いて行っています。昨年度の自主研究で県大のごみ分別の状況、排出状況を調査し、今年度はその調査結果に基づいて「県大生のごみ分別に対する意識の向上と行動促進のための提案」というテーマで活動を行ってきました。

「ごみ分別促進を考える会」は、先生方にも集まって頂いて私たちの活動に対するご理解とご協力をお願いするとともに、新しいごみ箱に関する提案や分別に関する意見などを頂く貴重な機会です。これからも継続して開催したいと考えています。また今年度中には、分別を誘導する捨て口、明確な表示、中身が見えるなど、分別を促進するような様々な工夫を取り入れた新しいごみ箱を試験的に設置します。学内の分別を改善していくために、皆様是非ご協力のほどよろしくお願い致します。



環境共生学部
環境共生学科
生態・環境資源学専攻
4年 清水 日佳里

学内では、学生グループが資源の有効活用を図る取り組み（資源ゴミ回収の効率化等）を進めています。学生の皆さんの協力をお願いします。

県大におけるごみ分別促進を 考える会スタート

就職状況

就職までのタイムスケジュール			
1年	4月	学年オリエンテーション(講演会)	将来の進路を意識した、今後のキャンパスライフの過ごし方を説明します。
	4月	学年オリエンテーション(講演会)	就職に対する意識を高めるために、就職講演会を実施します。
2年	8月～9月	夏季インターンシップ	民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立っています。
	10月	公務員ガイダンス	
	2月～3月	春季インターンシップ	民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立っています。
3年	4月	学年オリエンテーション(講演会)	就職に対する意識を高めるために、就職講演会を実施します。
	7月	就職プレガイダンス	適職診断プログラムの実施、就職活動ガイド(大学作成)の配付等の他これから就職活動をはじめるとの心構えをガイダンスします。
	8月から9月	夏季インターンシップ	民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立っています。
	10月	公務員ガイダンス	
	10月	就職ガイダンス	10月以降に実施する就職セミナーの説明や、就職に対する意識を高める講演等を行います。
	10月～1月	就職セミナー	週に1度のペースでテーマの異なるセミナーを実施します。
	12月～1月	公務員2次試験対策	集団討論や個人面接の対策を行います。
	2月	就職セミナー週間	就職活動の直前対策として、1週間集中して実践に即したイベントを行います。企業説明会や公務員説明会、模擬集団面接(討論)、最新情報ガイダンス、内定者(合格者)発表会、受験相談会、筆記模擬試験等全て無料で受講できます。
4年	2月～3月	福岡地区合同企業説明会バス運行	福岡地区で行われる合同企業説明会に大学からバスを運行します。
	4月	教員採用説明会	
	随時	学内企業説明会	
		模擬面接・エントリーシート添削・カウンセリング等 採用情報の提供	

インターンシップ発表会

平成17年10月5日、大講義室で夏季インターンシップ発表会を開催しました。午後6時からの遅い時間にもかかわらず、研修学生、受入事業所の担当の皆様、学長、学生部長をはじめとする教職員等約200名が参加し、活気のある発表会となりました。

インターンシップに参加した約150名の中から10名の学生が体験発表しました。学生らは、「仕事に取り組む姿勢や就職先の業種・企業選定の参考になった」、「研修に参加してよかった」などそれぞれの感想を述べました。パソコンを使用したり、身振り手振りを織り交ぜるなど、プレゼンテーションにも工夫を凝らし、ユニークかつ熱のこもった発表が繰り広げられました。

受け入れ事業所側は県庁、(株)鶴屋百貨店、九州記念病院、くまもと経済(株)地域経済センター、(株)肥後銀行、熊本製粉(株)等17社から24人の皆様にご出席をいただき、発表の後にそれぞれの立場から感想や今後のアドバイス等、貴重なコメントをいただきました。

今年度のインターンシップでは、全学部2、3年次を対象に夏季(8～9月)に147名(延べ154名)、春季(2～3月)に64名(延べ66名)を派遣しました。年々研修生の数も増えており、春季に参加した学生が夏季に再度申し込むなど、それぞれ成果に手応えを感じているようです。本格的な就職活動の前に、社会の一端を経験することにより、職業のこと、自分の将来のことを考えるきっかけとして欲しいと願っています。

発表者氏名 (カッコ内は派遣先事業所)

総合管理学部 山崎拓哉、文学部 福永あずさ(株)熊本放送)、総合管理学部 中野裕子(熊本市役所)、環境共生学部 豊田麻里子(財)化学及血清療法研究所)、文学部 村上絵里香(ホテルニューオータニ熊本)、総合管理学部 平野雅己(御船町役場)、文学部 宮川亜衣(湖東カレッジ教育芸術専門学校)、環境共生学部 熊谷 彩(新産住拓(株)、(株)田代設計)、総合管理学部 山下智子(株)テレビ熊本)、総合管理学部 田成優一(熊本トヨペット(株))

就職センター

就職情報提供と、きめ細かな就職指導・親身な就職相談を行っています。

学生の就職情報収集の場として利用できるのが、第一大会館内に設けられた就職センターです。県内外の企業からの求人票や就職情報誌、業種別に分類した約3,000社の企業ファイル、先輩の受験報告書、企業別卒業生名簿など、就職に関するいろいろな資料が揃っています。

ここでは就職に関する資料や書籍などの閲覧ができるほか、書籍やビデオテープの貸し出しを受けられます。

また、二人の専任の就職アドバイザーが常駐して、学生の就職相談や指導にあたっています。



就職活動の主役は もちろん「あなた自身」です。

就職センターでは、経験豊かな就職アドバイザーが進路相談から企業情報の収集の仕方、自己PRおよび志望動機を中心とした履歴書の書き方、受験する企業に焦点を合わせた面接や入退室のマナーに至るまで、親身になり徹底指導を行なっています。

就職センターをよく利用する学生ほど、内定も早いようです。早い時期から就職センターを積極的に活用してください。



就職アドバイザー
近藤 俊哉



就職アドバイザー
前田 勝

● 就職センター ●

相談時間：月曜日～金曜日 午前10時から午後5時まで（昼休みを除く）
※時間外でも電子メールで相談を受け付けています。

E-mail: gakusei@pu-kumamoto.ac.jp

卒業生からのメッセージ



(平成18年3月卒業)

鈴木 俊也 さん

セキスイハイム
九州株式会社
熊本支社 入社

私が初めてエントリーシート※を書いたのは3年生の11月、内定をいただき就職先を決めたのは4年生の6月でした。このように半年以上を費やした就職活動に対して、私は「楽しもう」という気持ちで臨んでいました。

さまざまな企業の説明会に参加すると、いろいろな発見があります。名前も知らない企業が普段何気なく使っているものを造っていたり、斬新な方法で商売をしている企業があったり…そんな発見を楽しむことができるのは、就職活動ならではの特権です。

また、「面接も「面接官を笑わせよう」という気持ちで臨むと、気持ちが楽になり、その場の会話を楽しむことができました。

就職活動には大変そうないメージがありますが、このように考え方を変わると楽しむこともできます。

大学時代のまとまった時間に就職活動ができるのは一生に一度です。ので、せっかくならその時間を楽しむことをおすすめします。きっと、そこで得られるものもたくさんあるはずですよ。

※企業が独自に作成している応募書類

キャンパス・ニュース

●食の安全安心 フォーラム開催

平成18年1月29日(日)、くまもと食の安全安心フォーラムを開催しました。

このフォーラムは、くまもと食の安全安心協議、熊本県、熊本県立大学の共催で開催したもので、生産・流通・消費に関わる個人や団体など約300名の方が出席されました。

最初に、和洋女子大学副学長兼大学院総合生活研究科長であり、内閣府食品安全委員会として活躍されている坂本元子氏(熊本県立熊本女子大学卒)から、「食の安全と安心：最新の情報」と題し、基調講演



が行われました。

午後から行われたランチオンセミナーでは、「食事バランスについて考えよう」朝食の必要性を踏まえて」と題し、本学環境共生学部の本田榮子助教授から、講演が行われました。

セミナーでは、参加者が持参したお弁当を食べながら、食事バランスガイドに基づいた診断やクイズなどが行われました。

その後、「食の安全安心：そして食育へ」と題し、パネルディスカッションが行われ、食の安全への理解、食育推進への取り組みや展開などについて意見交換が行われました。

●研究成果報告会

平成17年9月から平成18年1月にかけて、熊本県立大学研究成果報告会を開催しました。大学の研究成果の地域への還元を目的として行われた本報告会では、地域の課題解決につながる様々なテーマについて、大学教員や国内外からお招きした研究者から研究成果の報告が行われました。

研究成果報告会

テーマ(開催期日)	講師	内容	参加人数
これからの食育と栄養教諭への期待 (H17.9.4)	金田雅代 教授 (女子栄養大学) 他	学校教育における食育の重要性と、栄養教諭に求められる役割について、講演とパネルディスカッションを実施	170名
『古今和歌集1100年熊本フォーラム』ワークショップ「古今集を学ぶ・歌う・体験する」 (H17.11.4)	青柳隆志 助教授 (東京成徳大学) 兼築信行 教授 (早稲田大学)	古今和歌集成立1100年を記念して行われた「古今和歌集1100年熊本フォーラム」の一環として、学生による研究成果の発表と、講師の指導による古式に沿った和歌の詠み上げの実演を実施	130名
沿岸域の環境保全と再生に関する国際シンポジウム (H17.11.29)	マルコム・ジョーンズ 教授 (プリマス大学) マイケル・ヴァインスタイン博士 (ニュージャージー海洋科学コンソーシアム)	沿岸環境に関する第一人者として世界的に有名な研究者をお招きし、環境問題についての国際シンポジウムを開催	80名
平小城(ひらおぎ)地域活性化に向けたマーケティング戦略 (H18.1.30)	立山敏男教授 宮園博光助教授 (熊本県立大学総合管理学部)	平山温泉が位置する山鹿市の平小城(ひらおぎ)地区について、地域貢献研究事業で実施した「平小城地域活性化に向けたマーケティング戦略」の成果を報告	50名

● 熊本県立大学ホームページをリニューアルしました!!

昨年11月、学生の皆さんを対象に「大学ホームページに関するアンケート」を実施し、いただいたご意見を参考に、ホームページのリニューアルを検討してきました。

今回のリニューアルで利用対象者別のメニューを増やすなど、利用される方にとってより使いやすいホームページとなりました。ぜひご活用ください。



URL: <http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

アスベスト調査結果

昨年、大きな社会問題となりましたアスベストについて、本学でも実態調査を行いました。調査の対象となったのは、教員住宅を含む大学内のすべての建物で、飛散の恐れがあると言われる「吹き付けアスベスト」の使用の有無について、本学職員及び県庁営繕課職員が図面及び目視により確認しました。また、アスベスト含有の可能性があるとされる「吹き付け石綿」等の吹き付け材についても、サンプルを採取し専門の分析機関に検査を依頼しました。その結果、いずれにおいてもアスベストの存在は確認されませんでした。

学生の声

「古今和歌集1100年 熊本フォーラム」に参加して

文学部日本語日本文学科4年

原岡 佑里さん

昨年は日本最古の勅撰和歌集である『古今和歌集』が成立して千百年という記念の年でした。各地で記念行事が行われる中、県立大学でもフォーラムが開かれると聞き、私たちは熊本県内で『古今集』と関係のある土地を調査し、その結果を発表する事に決めました。あまり知られてはいないものの、熊本県内には和歌の歌枕として詠まれた土地が多数存在します。今回我々は芦北野坂、水島、白川、鼓が滝に足を運び、実地踏査を通じて、古今集時代に、肥後の国が都人にどのような形で認識されていたのかを考察しました。何れの土地も、和歌に詠み込まれた景観を彷彿とさせるような素晴らしい眺めで、当時の人々が何故歌枕に肥後の地名を用いたのか理解出来たような気がしました。しかしながら、これらの歴史的価値観から見ても優れている場所は、世間にはよく知られていません。今回の我々の発表を通じて、少しでも多くの人が興味を持ってくださればと思います。



「実地踏査先 長田王の萬葉歌碑(芦北町)の前で」【長田王はこの辺りから「芦北の野坂の浦舟船でて水島にゆかむ波立つなゆめ」と詠んだとされる。】(写真中央が原岡さん)

● サークル便り ●

弓道部



こんにちは、弓道部です。私たちは弓道部は男子6名、

女子11名の計17名で週に2回の合同練習、それ以外の日は自主練習をして日々精進しています。

環境共生学部 生態・環境資源学専攻 3年
部長 坂本 将基さん



この弓道部はかなり活動的な部活だと思っています。年に5回ほど大きな試合があり、主に県外へ行きます。修学旅行のようでもっとも楽しいですし、試合では、仲間たちと団体戦で上位を目指し熱く燃えます！特に女子団体は熊本の連盟戦では常に上位に入り、大きな試合でも決勝リーグに残れるほどの力を持っています。男子も少ないながら、昨年の12月に行われた九州学生弓道新人戦指宿大会では男子部員が個人5位入賞というすばらしい成績をおさめるなど、めざましく成長しています。試合の他にも様々な行事があり、部員の仲も非常によく、とても楽しく過ごしています。皆さん、弓道つておもしろいですよー！

後援会 便り

後援会とは、

- 本学在学生の父母またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果を高めることを目的としています。

後援会の事業について…

事業としては、就職意識啓発・公務員試験対策・各種資格取得講座やサークル活動支援、国際交流・留学支援、語学力向上支援、TOEIC®学内試験等、パソコン・コピー機・図書を整備、学生の自主研究助成等を実施し、学生活動全般を支援しています。

後援会の予算は…

毎年度約4千万円の予算を執行していますが、収入の約8割を会員の方々の会費で賄っています。より多くの保護者の方々に会員になっていただくことによって、より充実した事業の実施につながります。

入会・会費納入について…

新入生に関しては、本学合格通知の際及び入学の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。加入特典が大きいため、保護者の皆様には、是非ともご加入頂きますようお願いいたします。

なお、2年次以上であっても、在学中であれば随時入会を受付けておりますので、お気軽にご相談ください。

会員の皆様へ…

例年、6月中旬の土曜日に、本学において後援会総会を開催し、前年度の事業報告・決算、当年度の予算・事業計画について会員である皆様に審議していただきます。

平成17年度は総会終了後、各学部毎に、学部の活動や就職をテーマとした教員と後援会会員による懇談会を実施し、盛んな意見交換が行われました。

平成18年度の総会については、5月頃ご案内致します。会員の皆様の御出席をお待ちしています。

平成17年度事業の新たな動き…

・就職ガイドブックの作成

後援会では、就職支援の一環として、県立大学オリジナルの就職ガイドブックを作成し、平成17年10月の就職ガイダンスで3年次に無料で配布しました（後援会未加入者は有料）。就職活動を進める上で必携の1冊として活用してもらいたいと考えています。



・OB、OG就職支援会主催事業への助成

本学の卒業生が、在学生の就職活動を支援することを目的として「県立大OB・OG就職支援会」を立ち上げました。2月13日には、支援会主催事業として、本学において「仕事を楽しむ」をテーマにパネルディスカッション、在生との交流会が行われました。本学卒業生を中心とする社会人約25名、学生約70名が参加しました。

後援会では、今後ともOB、OG就職支援会と連携し活動を支援することにより、後援会の事業の柱の一つである就職活動支援をより充実させていきたいと考えています。



後援会の主な事業

◎就職対策事業◎



●マスコミ講座受講生
日本語日本文学科
3年次
今井 晴香さん

作文や面接、自己PRなど直接指導していただき、大変勉強になりました。
また、同じ目標をもつ仲間と互いに刺激しあいながら学ぶこともできました。
今後の就職活動に大いに生かすことのできる体験だったと思います。

■1・2年次向け就職ガイダンス

意識啓発につながる講演や就職適性テストを無料で受けることができます。

■3・4年次向け就職対策

大学で実施する学内セミナー、各種の就職支援事業の経費を後援会から支出しています。

■公務員講座・資格取得講座

学生が良質な講座を低料金で受講できるよう経費の一部を助成しています。

■講座受講・資格取得支援

就職につながる資格を取得した学生に経費の一部を助成します。

■サークル助成金

各サークルの活動費の一部、全国大会などへの出場経費の一部を助成しています。

■コピー機の設置

学生が学業のために日常的に利用するコピー機のリース費用を支出しています。

■パソコンのリース

学生への貸し出し用としてノートパソコン24台をリースし、配備しています。

■図書の整備

図書館の本を購入します。リクエストがあれば、図書館に申し込んでください。

◎学生活動支援事業◎



●サークル助成金
総合管理学科 3年次
野口 佐紀さん
吹奏楽部 部長

高額な楽器は自分達の部費だけでは購入できないため、助かっています。

少人数で活動していますが、他大学との交流もあります。また、昨年12月の人権フェスティバルでは、オープニングの演奏を行いました。入学式・卒業式など大学の行事でも頼りにされています。

◎国際化推進事業◎

■海外留学助成

海外留学や研修を行った学生に経費の一部を助成しています。

■研修団受入

姉妹提携大学との交流事業に協力する学生やサークルを支援しています。

◎教育研究助成事業◎

■学生共同自主研究助成

学生グループが自発的に行う研究の経費や研究成果の具体化事業へ助成をしています。

■インターゼミナル大会等出場助成

大会等出場旅費の一部を助成しています。

詳しくは「後援会のしおり」をご覧ください。

*** お 知 ら せ ***

月	日	内 容
4月	6日	入学式(於:県立劇場)
	6・7日	大学院新入生オリエンテーション
	7・10日	学部新入生オリエンテーション
	7日	授業公開講座開校式(社会人)
	上旬	卒業年次健康診断
	11日	在学生オリエンテーション
	12日	授業開始
	19日	日本学生支援機構奨学金・授業料減免説明会
	28日	授業料第1期分引落日
	29日	法人化記念シンポジウム
5月	上旬	法人化記念特別出前講座(~下旬)
	中旬	卒業年次以外健康診断
6月	17日	TOEIC®団体特別試験(第1回)(予定)
	中旬	後援会評議会及び総会
	下旬	韓国祥明大学校短期研修団受入(~7月上旬、10日間程度)
7月	26日	前期試験(~8月8日)
	下旬	オープンキャンパス(予定)
8月	上旬	授業公開講座(後期)受講生募集
	上旬	モンタナ州立ビルングス校夏期研修団派遣(3週間程度)
	11日	夏季休業(~9月30日)
9月	中旬	韓国祥明大学校短期研修団派遣(10日間程度)
	中旬	自己推薦型入試(総合管理学部)
	28日	授業料第2期分引落日
	未定	大学院(環境共生学研究科)入学試験(秋季募集)

*期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせ下さい。

●授業料払込み方法が変わります

授業料については、従来、納付書による納入をお願いしていましたが、銀行窓口へ持参する手間、現金扱いによる危険性を考慮し、平成18年度から口座引落による納入に変更します。引落日は、従来同様年3回(一括引落希望者を除く)で、本年度は下の表のようになっています。引落予定日が近づいてきましたら、学内掲示板等でお知らせしますので、預金口座や口座残高についての確認をお願いします。口座引落日以降の納付は、払い込み者自身で払込み手数料をご負担いただくこととなりますので、ご注意ください。

なお、授業料徴収猶予、分割払いなどについては、お気軽にご相談ください。

区分	金額	引落日
第1期	178,600	4月28日
第2期	178,600	9月28日
第3期	178,600	1月29日

※新入生については、別途お知らせします。

【問い合わせ先：総務課】

●授業料減免制度が変わります!

平成18年度から、授業料減免制度が大きく変わります。改正のポイントは、経済及び成績要件がこれまでより緩和される一方で、全額免除を廃止し、減免率を1/2または1/4に設定するというものです。従来、全額減免の対象だった学生は半額減免に、また住民税がわずかに課税されていただけで減免対象外だった学生は減免の対象となる可能性が出てきます。

詳しくは、4月19日に実施予定の説明会にて説明します。【問い合わせ先：学生支援課】

「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。いただいたご意見などは、今後の学報編集の参考にさせていただきます。

〒862-8502(住所記載不要)
 熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
 FAX: 096-384-6765
 E-mail: kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

■春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学

発行: 熊本県立大学
 〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
 TEL. 096(383)2929(代) FAX. 096(384)6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

17 総 熊県大

③ 004-2



古紙配合率100%再生紙を使用しています